



土着キイカブリダニのバンカー法を利用したアザミウマの防除



写真1 キイカブリダニ雌成虫 (体長は約0.4mm)



ムギバンカー

写真2 ムギバンカーを設置した雨よけパプリカほ場の様子

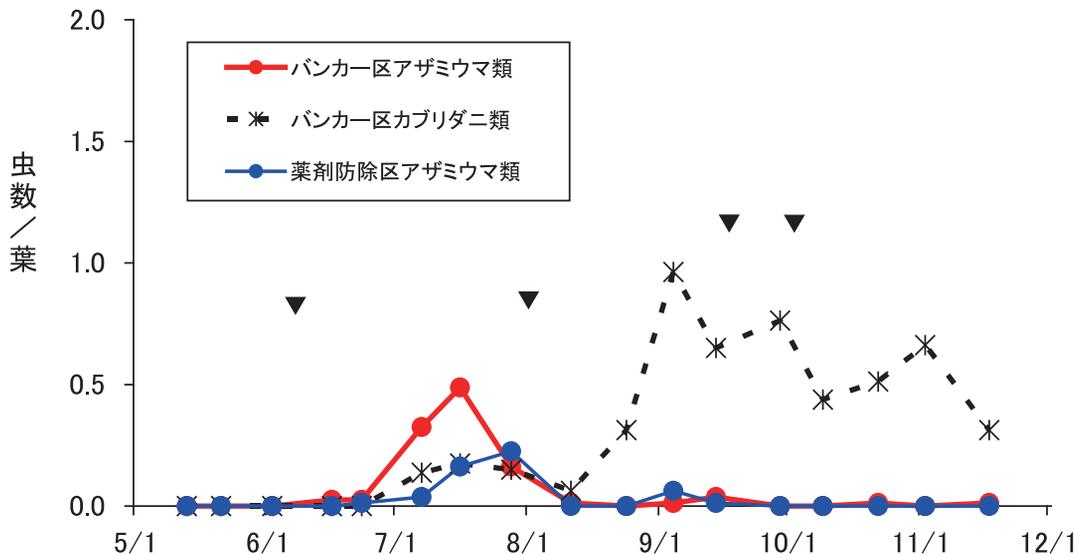


図1 各区におけるアザミウマ類およびカブリダニ類の発生推移

注1) カブリダニ類にはキイカブリダニ以外のカブリダニ類を含む。

2) ▼は薬剤防除区への殺虫剤散布を示す。

キイカブリダニ(写真1)はカブリダニ類のなかではアザミウマ類に対する捕食能力が高く、新たな土着天敵として期待されています。しかし、キイカブリダニは餌となるアザミウマ類がない場合、花粉だけではパプリカなどの果菜類に長期間定着することができません。このため、栽培作物に害のない虫をほ場内に植えた植物(バンカー植物)に発生させて代替餌とし、天敵を常に供給するバンカー法が必要になります。キイカブリダニの場合はムギ(写真2)とクサキイロアザミウマを用います。このバ

ンカー植物を雨よけパプリカ栽培ほ場に設置したところ、殺虫剤を使用することなくアザミウマ類を低い密度に抑えることができました(図1)。また、バンカー設置ほ場では殺虫剤の使用が控えられたことで、薬剤防除ほ場ではほとんどみられないニセラーゴカブリダニ(ハダニ類の天敵)やアカメガシワクダアザミウマ(アザミウマ類の天敵)などの天敵の発生も確認され害虫防除の手助けになっていると考えられました。

(昆虫担当 古味一洋 088-863-4915)